

巻 頭 言



常務取締役 池畑博実

真空管ラジオを作ったことがありますか？

「ものづくり」について考える時、よみがえる思い出があります。
真空管ラジオのことです。

中学時代、私の通学路近くに比較的大きな電機屋がありました。中学1年の時（今を遡ること45年前）、興味本位で時々立寄るうちにふと目に入ったのが、3球の真空管ラジオのキット。自分で作ってみたいくなりました。

まず半田と半田ごてを手に入れ、学校で習うわけでもない回路図を何とか理解しつつ組付け開始。学校から帰り着くのももどかしく、早く音声を聞きたい一心で夢中で取組み続けました。

音（ピーッ、ブーン）が出た。電波を拾った。ビートルズのイエロー・サブマリンが聞こえた。やったー。でも、ひと月もすると飽きが来ます。

今度は5球スーパーラジオに挑戦。作ったばかりの3球ラジオを分解し、部品の一部を5球ラジオに転用。新たに真空管、シャシー、抵抗、コンデンサ、スピーカなどを買って足してやっとなら組付け開始。完成には手間取ったものの、よりいい音の出るラジオができたような気がしました。しばらくはこのラジオを愛用しました。

半田付けで発するヤニのにおいは今でも私にとって、科学の原点です。

最近当時のことに思いを馳せながらインターネットで遊んでいたら、真空管ラジオのキットが目に入り購入しました。真空管は30年以上前の中国製だそうです。懐かしい真空管に触れながら束の間のノスタルジー。少しワクワク。「組立てに半田は不要で、2時間でできる」のうたい文句通り、夜寝る前に少しづつやってみたら程なく完成。

でも達成感は今一歩。何か足りない。

さてよ、初めてのラジオ作りの時にあったものは何かな？

- 自分で決定
＝ やらされ仕事ではない
- はじめから終わりまで自分だけで完結（費用の調達をのぞけば）
＝ 究極のSE (Simultaneous Engineering)
- やったことが無いことへの挑戦
- 試行錯誤のプロセス
- 自分の工夫の入る余地

古今東西を問わず、私たちがいきいきと仕事をするためにとても大事なことだと思います。